

令和6年9月18日 発表

# 中小企業月次景況調査結果

## 令和6年8月分

～令和6年8月 データから見た業界の動き～

令和6年9月18日 発表

製造業は受注量の低下に苦慮  
非製造業は売上高D.I値が大きく上昇するも、先行きの見方は慎重



## 山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和6年9月18日 発表

## 製造業は受注量の低下に苦慮 非製造業は売上高D.I値が大きく上昇するも、先行きの見方は慎重

### ■ 概 況

8月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 +16ポイント（前年同月比 12ポイント↑）

収益状況 ▲18ポイント（前年同月比 ±0ポイント）

景況感 ▲4ポイント（前年同月比 6ポイント↑）となり、売上高・景況感で前年同月を上

回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲25ポイント（前年同月比 15ポイント↓）

収益状況 ▲35ポイント（前年同月比 5ポイント↑）

景況感 ▲20ポイント（前年同月比 15ポイント↑）となった。

「少額の見積もり案件でも価格競争が激化しており、受注まで至らないケースが増えている（電気機械器具製造業）」や「半導体関連・設備関連の生産が停滞している（業務用機械器具製造業）」など、受注量の低下に苦慮する事業者が多く、売上高D.I値が低下（▲15ポイント）した。

また収益状況D.I値について、前年同月と比べると5ポイント上昇したが、前月と比較すると▲25ポイントであり、「現下の厳しい経営環境を考えると次の値上げ交渉をいつ行うか、既に考えざるを得ない状況である（骨材・石工品等製造業）」と、価格転嫁に一定程度進展はあるものの上昇幅が十分ではない状況が窺えた。

一方、非製造業では…

売上高 +43ポイント（前年同月比 30ポイント↑）

収益状況 ▲7ポイント（前年同月比 4ポイント↓）

景況感 +7ポイント（前年同月比 ±0ポイント）となり、

売上高D.I値が前年同月を大きく上回った（+30ポイント）が、「県外同業者や他業種からの新規参入が増えていることが懸念材料である（廃棄物処理業）」や、「来年春に開業予定の大型外資スーパーには県内最大規模のガソリンスタンドが併設されるため、地元組合員の経営に大きな影響を与えることが予測される（ガソリンスタンド）」など、先行きについては慎重な見方の事業者が多かった。（景況感±0ポイント）

また「猛暑に加えて雨量も多かったため青果物の出荷量が安定せず、配車に苦労した事業者が多かった（道路旅客運送業）」や「台風によって漁が止まったため、鮮魚が品薄状態になることを懸念している（鮮魚小売業）」など、台風による流通への影響が窺えた。

物価高騰や賃上げへの対応などによって経営を取り巻くあらゆるコストが上昇する中で、製造業・非製造業ともに多くの中小企業者が価格転嫁に苦慮している。

国は下請法の運用基準を改正（2024年4月）し、原材料価格や労務費などの上昇分を反映せず下請代金を据え置くことも“買ったたき”になりかねない旨を明確化するなど、下請事業者の価格交渉・価格転嫁が適切に進むよう環境整備を進めているが、実際には取引先との力関係によって十分な転嫁の要請・交渉ができていない中小企業者が多い。

中央会では10月に、価格転嫁実現のため取引先の理解を得やすい交渉の進め方、価格設定・見直しの考え方のアドバイスや、組織力を活かした取引の交渉手段である「団体協約」の紹介などを行うセミナーを開催します。その他にも、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化していますので、お気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	原材料関連の大口取引の時期がずれたため、前年同月と比べ売上は78.6%となった。
食料品 (洋菓子製造業)	前年同月と比べ売上は106.4%となった。8月中旬までは猛暑によってアイスの売れ行きが好調であったが、下旬以降は台風の影響もあり大きく落ち込んだ。
食料品 (パン・菓子製造業)	ワイナリーの新規開業が増えており、組合員数も増加しているが、一社当たりの売上数量は微減状況が続いている。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は▲40%となった。猛暑によって仕事効率が低下している。
印刷業	コロナ禍が終わりしばらく経つが、仕事量が中々回復しない。
窯業・土石 (砂利)	台風・大雨の影響によって原石の採取ができず、製品需要も低下したことで、前年同月と比べ売上は▲10%・収益状況は▲5%となった。
窯業・土石 (山碎石)	組合員の価格転嫁交渉には一服感があり、多くの事業者は単価アップを達成したが上昇幅は十分ではなく、現下の厳しい経営環境を考えると次の値上交渉をいつ行うか、すでに考えざるを得ない状況である。 当業界のみならず建設業界全体の活性化のため、行政にはリニア関連以外の発注の増加を求める。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	前年同月と比べると景況感は良くなったと感じる。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲20%となった。物価高騰に加えて半導体関連・設備関連の生産が停滞しており、今年いっぱい厳しい状況が続く予測である。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上は10%増加・収益状況は15%好転した。県内よりも県外の方が仕事が多く景況感も良い。
電気機器 (電気機械部品加工業)	取引先の夏休みによって受注量が減少、休み明けの動きも悪かった。少額の見積り案件でも価格競争が激化しており、受注まで至らないケースが増えている。 また半導体関連の受注量には波が有り、安定するまでは時間がかかると予測している。
宝飾 (貴金属)	前年同月と比べ売上は▲30%となった。地金相場が安定せず見通しを立てにくい。

● 非製造業

卸売 (ジュエリー)	前年同月と比べ売上は15%増加したが、収益状況は5%悪化した。原材料の価格高騰分の転嫁は徐々に進んでいるが十分ではなく、収益状況が悪化している。 甲府市のふるさと納税ではジュエリー返礼品の需要が高いものの、全体の販売数量は減少しており、消費活動の低迷を懸念している。 また職人不足も課題であり、行政と連携して業界PRや育成に取り組んでいる。
小売 (青果)	前年同月と比べ売上は2%増加した。ギフト用商品(桃・ブドウなど)の売上が好調であった。
小売 (水産物)	台風によって漁が止まったため、鮮魚の流通に影響が出ている。また防災意識の高まりや米不足の影響で水・備蓄食料の売れ行きが好調であるが、品不足が課題である。

小売 (事務機小売業)	仕入価格のほか送料なども値上がりしており、厳しい状況が続いている。
小売 (ガソリン)	原油相場の下落（76～78ドル/バレル）と為替相場の円高進行（140円台）によって、原油調達コストが低下し卸売価格・小売価格も値下がり傾向である。 南アルプスにオープンするCostcoに併設されるガソリンスタンドは、県内最大規模（24台同時給油）であることから、地元ガソリンスタンドの経営に大きな影響を与えることが予測され、組合として対策を検討している。
商店街	大月駅周辺で有料駐車場が乱立し価格競争が激化しており、組合が管理する駐車場の売上が減少している。サマーセールを実施するなどして組合員は売上を維持しているが、客足減少によって厳しい状況が続いている。 大月駅を利用する外国人観光客や周辺ホテルへの宿泊者などを、どのようにして商店街に誘導するかが大きな課題である。
宿泊業	夏休みシーズンであり、国内外から観光客が増加した。 9月以降も観光のベストシーズンが続くため、さらなる客足増加を期待している。
宿泊業	前年同月と比べ売上は19%増加したが、人手不足が深刻な課題である。
産業廃棄物処理	最大の課題は人手不足であり、修理・修繕費や人件費の増加も課題である。 売上は改善傾向であるが、今後は資金繰りの悪化や設備投資の費用増加が懸念される。
一般廃棄物処理	資源物の契約業務について、県外同業者や他業種からの新規参入が増えていることが懸念材料である。地元事業者ならではの強みを活かし、組合としては官公需適格組合制度を最大限に活用して対抗していく必要がある。
警備業	高齢化による退職者や熱中症等の体調不良者が続出していることに加えて、新規採用の応募者も少なく、警備員不足が深刻である。
自動車整備業	7月の車検台数について、普通車16,599台（前年同月比+924台）、軽自動車11,744台（前年同月比+459台）であった。※集計の都合上、7月末の数値 また令和3年10月以降に購入した自動車から、車検時の検査項目（OBD検査）が追加されるため、整備や点検・検査料金の値上がりを予測している。
建設業 (総合)	8月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は▲10%となったが、請負金額は4%増加した。8月末の累計件数は7.7%、請負金額は7.3%それぞれ増加した。
設備工事 (電気工事)	お盆期間は受発注が少ない傾向にあるが、手持量は工場によって大きく差がある。人手不足も課題であり求人募集に力を入れているが、応募が少ない。
設備工事 (管設備)	前年同月と比べ売上は11%増加・収益状況は14%好転した。全国的に管工事の受注高が民間・官公庁ともに好調であり、設備関連工事の需要が高まっていることから、受注体制の強化を進めていきたい。
運輸（タクシー）	前年同月やコロナ禍以前と比べてタクシーの稼働が増えている。 猛暑の影響からか、納涼会帰りの利用者が多く、盆中は帰省客の利用も多かった。

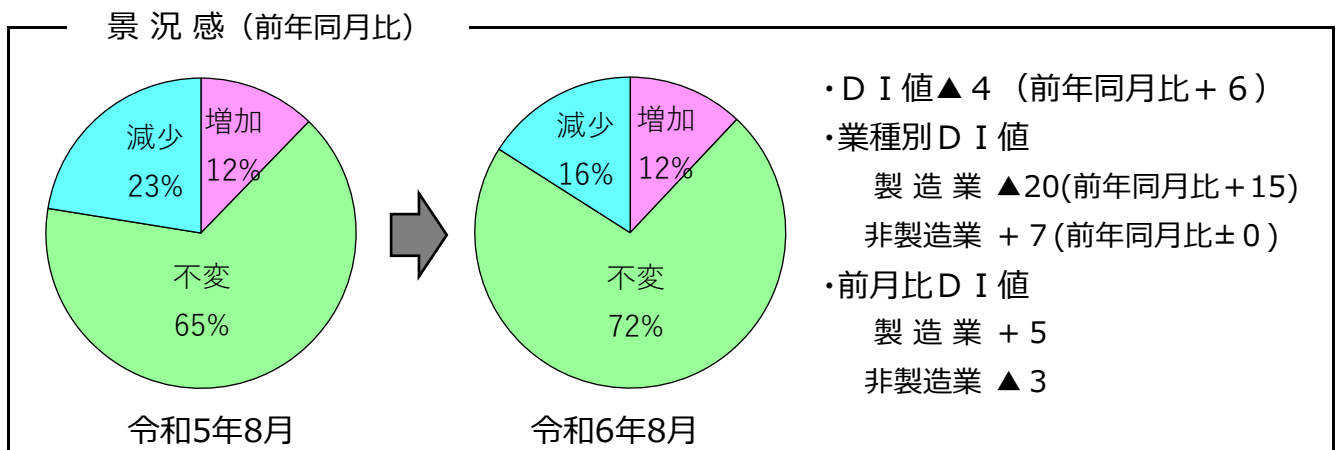
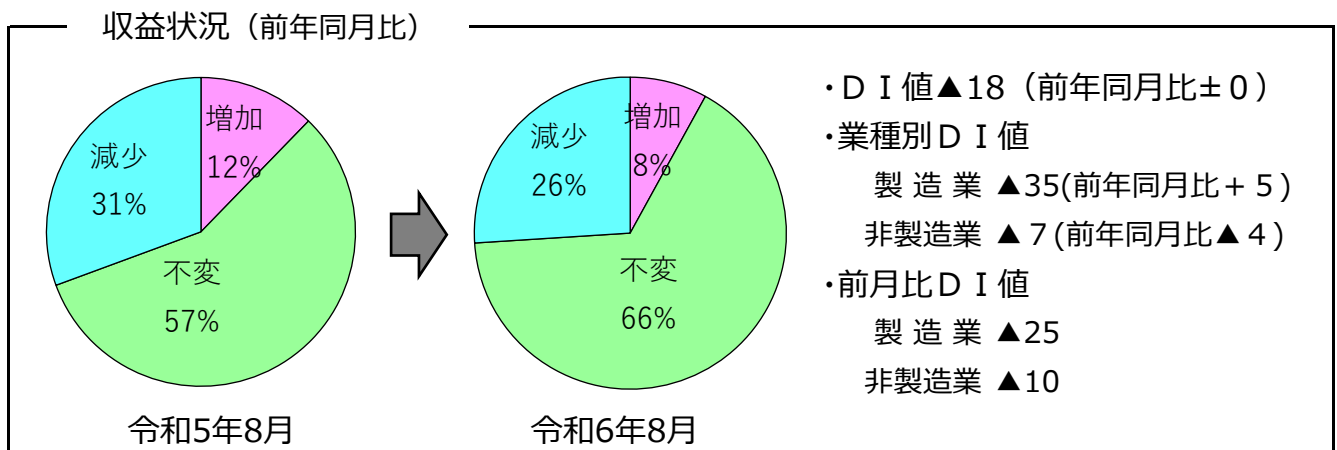
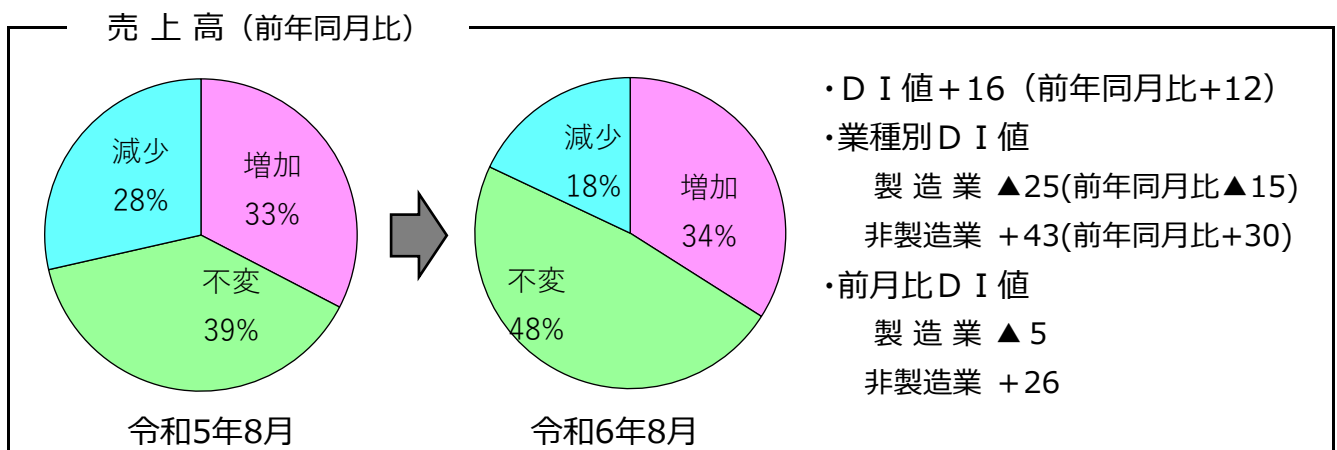
運 輸  
(トラック)

飲料水や青果物の輸送需要が高く売上が増加しているが、コロナ禍以前の状況には及ばない。  
猛暑に加えて雨量も多かったため青果物の出荷量が安定せず、配車に苦労した事業者が多かった。

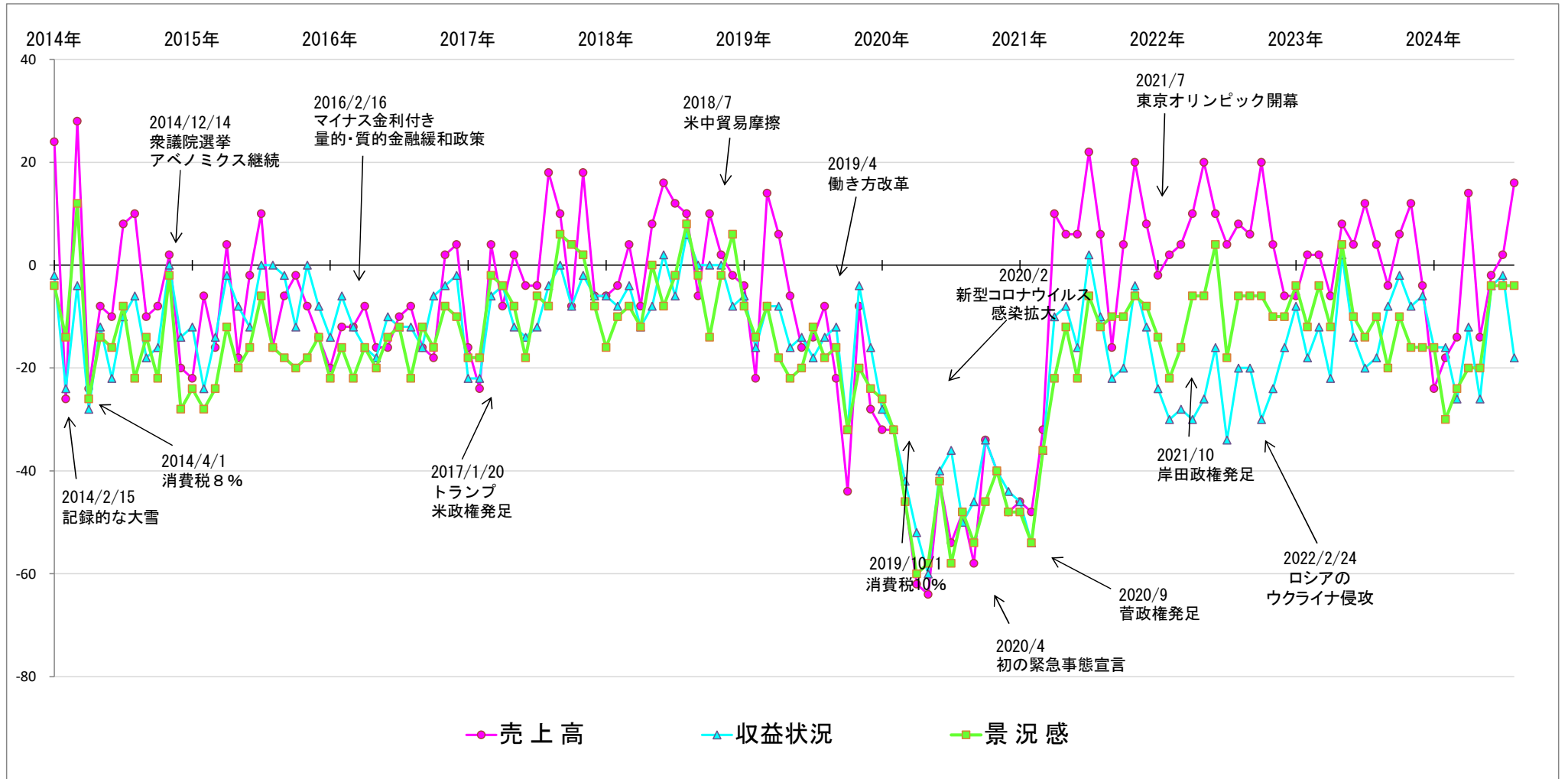
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2023年8月	2024年7月	2024年8月	2023年8月	2024年7月	2024年8月	2023年8月	2024年7月	2024年8月
売上高	▲ 10	▲ 20	▲ 25	13	17	43	4	2	16
収益状況	▲ 40	▲ 10	▲ 35	▲ 3	3	▲ 7	▲ 18	▲ 2	▲ 18
景況感	▲ 35	▲ 25	▲ 20	7	10	7	▲ 10	▲ 4	▲ 4

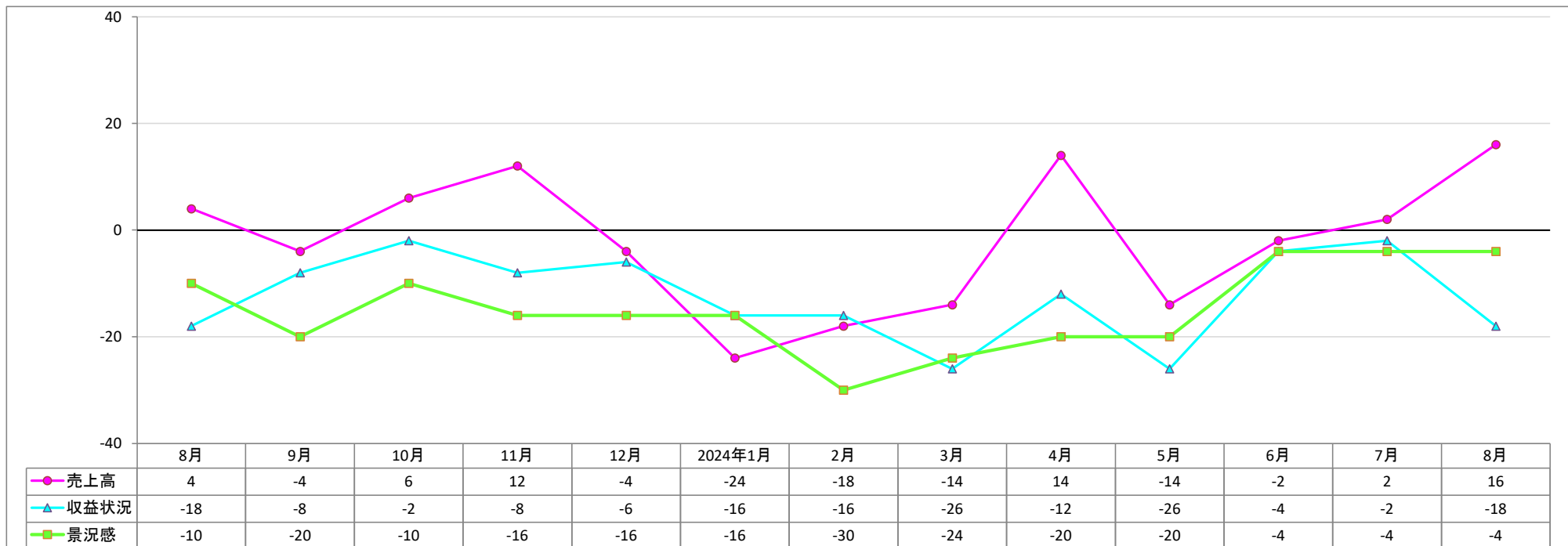
※( (良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



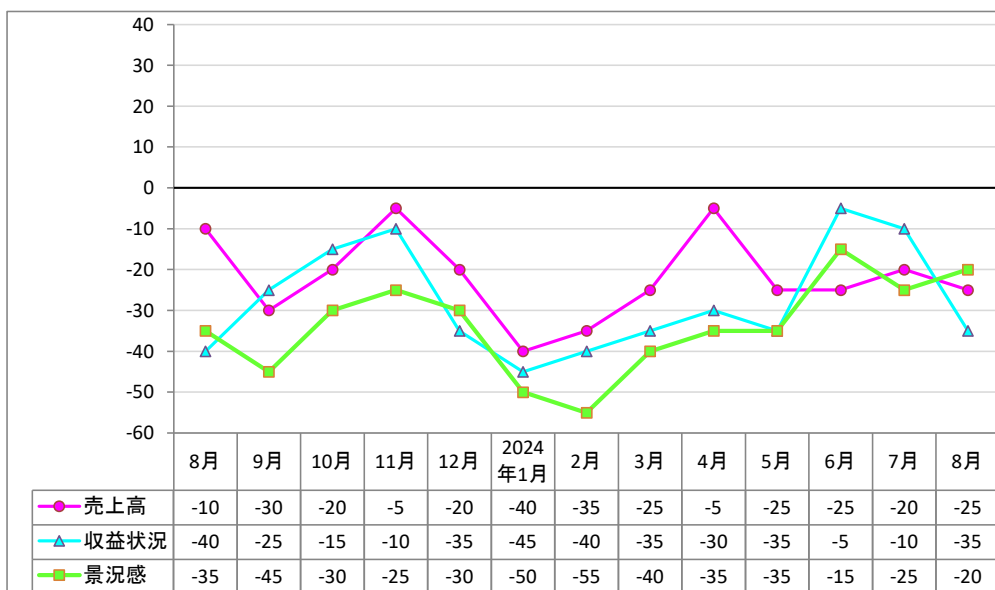
# D.I値の推移①(過去10年間) 2014年1月~2024年8月



# D.I値の推移②(過去1年間) 2023年8月～2024年8月



## 【製造業】



## 【非製造業】

